

平成27年度豊かなむらづくり全国表彰事業

農林水産大臣賞

春来集落（兵庫県新温泉町）



そば処 春来「てっぺん」



冬期間のかき餅作り

（概 要）

（１）むらづくりの動機・背景

昭和50年に、国道9号線の交通の難所を解決するため、集落の下に「春来トンネル」が開通したことで通過者にとっては交通の利便性はよくなったが、旧国道沿いの春来集落は取り残される形となった。農林業だけでは生活できない時代背景も重なり、多くの住民は学業や就職先として集落を離れて都会に出ていく傾向にあり、人口は減少の一途をたどっていた。

このような状況の中で、住みよい集落を目指して、昭和57年に村づくり部会を発足させ、時代の要求にあったむらづくりを進めてきた。発足から現在に至るまで、集落の村づくり部会では次々に想定される集落の課題に対して話し合いを続け、むらづくりを実践している。

（２）むらづくりの内容

地域住民の団結力が非常に強く、むらづくりに積極的に取り組んでいる。特に、冬期間の高齢者世帯の見回り活動を新聞配達員の協力も得ながら行い、住民の安全確保のために貢献している。

また、集落の財産である農地において永続的に耕作する仕組みを整えている。

さらに、「椿山公園まつり」をきっかけとしたそばの特産化は、6次産業化の先駆けとなった。「そば処春来てっぺん」を中心に、生産、加工及び販売を一貫して行うことで、今では年間2万人の入込み客がある。そばの6次産業化は、新しい産業として地域に定着し、雇用の場を創出するとともに、対外的に春来集落をアピールすることにつながっている。

春来集落の村づくり部会が発端となって、このような新しい動きが地域の活力となり、今後、時代にあった組織への再編を含め、よりよい集落として存続する体制の検討を継続している。